

特別活動

主な特別活動の行事予定表 ()内の数字は欠課時数

	1 年	2 年	3 年
4 月	オリエンテーション (1) 始業HR (1) 新入生歓迎会 (1)	オリエンテーション (1) 始業HR (1)	オリエンテーション (1) 始業HR (1)
5 月	春季スポーツ大会 (2) 学生総会 (1)	春季スポーツ大会 (2) 学生総会 (1)	春季スポーツ大会 (2) 学生総会 (1)
6 月	校外教育 (2)	工場見学・校外教育 (2)	
7 月			
8 月			
9 月	全校集会 (1)	全校集会 (1)	全校集会 (1)
10 月	秋季スポーツ大会 (2)	秋季スポーツ大会 (2)	秋季スポーツ大会 (2) 合宿研修 (4)
11 月			
12 月			
1 月	学生会長選挙立会演説会 (1)	学生会長選挙立会演説会 (1)	学生会長選挙立会演説会 (1)
2 月	全校集会 (1)	全校集会 (1)	全校集会 (1)
3 月			

各学年，クラスごとに随時行われるもの。(すべて1)
進路説明会，交通安全講習会，性教育講演会等各種講座

様式 A 特別活動（谷口/角谷/堀/山本綱）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	特別活動 (Special Curricular Activity)	単位	
	一般・専門の別・ 学習の分野		授業形態・学期	通年
	対象学生		必修・必履修・ 履修選択・選択の別	
	担当教員・所属系	担任：1-1 谷口（先進科学），1-2 角谷（電気電子システム），1-3 堀（機械システム），1-4 山本綱（電気電子システム） 副担任：1-1 中村ふ（海外展開促進），1-1 新任（海外展開促進），1-2 柴田（先進科学），1-3 パーマー（先進科学），1-4 浅野（情報システム） 学年主任：山口裕（電気電子システム），副主任：山口均（先進科学）		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野			
	学習教育目標との関連			
	技術者教育 プログラムとの関連			
	授業の概要	特別活動はホームルーム活動，学校行事，学生会活動に分類される。週一時間のホームルーム活動においては，学校生活への適応や進路の選択などについての指導を受けながら，人権問題も含め人間としての在り方，生き方を考える。特に1年では，校外教育，性教育講演会や交通安全講習会などの学校行事に取り組むことで，学校・学級生活の円滑化を図る。		
	学習目的	特別活動を通じて，津山高専における学校生活に慣れ，人間性の涵養，自主・自律性と社会性の育成に益する経験を積み，民主的・主体的に行動する態度を養うことを目的とする。		
	到達目標	1. 目標を持ち主体的に生きる学習・生活態度を確立する。 2. 集団の中での個人の在り方を主体的に考えられるようになる。 3. 集団を単位とした学校行事や学生会活動の意義を理解する。 4. ◎コミュニケーション，合意形成，課題発見の各能力および倫理観の獲得。		
	履修上の注意	特別活動は，第1学年から第3学年までの各学年30単位時間計90単位時間以上実施する。		
	履修のアドバイス	各学年の課程修了を認定するに当たっては，学業成績のほか特別活動の状況を併せ評価するので，主体的な活動への参加を要する。		
	基礎科目	中学校までの学級活動など		
	関連科目	特別活動（全系2年），すべての教科活動		

授業にかかわる情報		
授業の方法		ホームルーム活動は学級担任の指導・助言のもとに行う。また、毎朝、SHRを実施し、連絡事項を確認する。その過程では個々の学生の生活・学習状況についての相互理解を深め、信頼関係を形成し、家庭との連携などにも配慮する。また、学生会活動などに関しては、学生が学年を越えて協力し、自主的に活動をすすめる。活動内容によっては担任以外の教員からも協力を得る。
授業計画	開講週	内容〔項目〕（指示事項）
	前期 1週 ～ 15週	<p>ホームルーム活動の計画を下記に示す。他の学校行事、学生会活動の計画については『学生生活ガイドブック』を参照すること。学年単位での講演会・行事を行うほか、家庭との連絡のため、保護者懇談会を開催する。一般的な学習・生活指導、交通安全指導などは適宜行う。校内一斉清掃の他、各教室の清掃、日直活動など学級での活動もホームルーム活動に含む。</p> <p>(4月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学式と新入生オリエンテーション① ・始業HR（ガイダンス、クラス委員選出、日直などの職務）① ・新入生歓迎会① ・シラバスに関する指導と学習等目標記録簿に関する指導 （技術者教育プログラムの説明を含む） ・資格関連科目を含む選択科目の履修に関する指導 ・個人面談 ・入学前課題の報告 <p>(5月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春季スポーツ大会出場クラス選手選出、弥生祭委員選出など ・春季スポーツ大会② ・学生総会① <p>(6月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期中間試験について ・校外教育② <p>(7月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期末試験について <p>(8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの過ごし方

	後 期	16 ～ 30週	<p>(10月) ・学種等目標記録簿による中間達成度評価 ・秋季スポーツ大会出場クラス選手選出, 保護者懇談会調整など ・秋季スポーツ大会② ・交通安全講習会</p> <p>(11月) ・後期中間試験について</p> <p>(12月) ・冬休みの過ごし方 ・キャリア教育</p> <p>(1月) ・進路説明会 ・性教育講演会</p> <p>(2月) ・学生総会① ・学習等目標記録簿による達成度評価 ・春休みの過ごし方 ・清掃</p>
教科書, 教材等			適宜, 資料を配布する。また映像資料等もできるだけ活用する。
成績評価方法			「特別活動の結果が良好である」との認定は, 実施時間数の5分の4以上出席した者について行う。SHRについては, 10回欠席で特別活動の1単位時間の欠席とする。評価は, ホームルーム活動, 学校行事, 学生会活動などの結果を総合して行い, 「合」「否」で判定する。
受講上のアドバイス			与えられた情報を受け取り, 課題をこなすだけでなく, 積極的に参加することに心がけましょう。それによって学校生活を一層楽しく充実したものにすることが可能となります。10分を超える遅刻は欠席とする。

ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目 1	目標を持ち主体的に生きる学習・生活態度を確立している		目標を持ち主体的に生きる学習・生活態度を確立する意識が十分にある		目標を持ち主体的に生きる学習・生活態度を確立する意識がある		目標を持ち主体的に生きる学習・生活態度を確立する意識がない
評価項目 2	集団の中での個人の在り方を主体的に考え、学校行事や学生会活動の意義を理解し、積極的に参画している		集団の中での個人の在り方を主体的に考え、学校行事や学生会活動の意義を理解し、十分に参画している		集団の中での個人の在り方を主体的に考え、学校行事や学生会活動の意義を理解し、参画している		集団を単位とした学校行事や学生会活動に参画する意識が乏しい
評価項目 3	コミュニケーション、合意形成、課題発見の各能力及び倫理観の獲得に一定の成果が見られる		コミュニケーション、合意形成、課題発見の各能力及び倫理観の獲得に十分に努力している		コミュニケーション、合意形成、課題発見の各能力及び倫理観の獲得に努力している		コミュニケーション、合意形成、課題発見の各能力及び倫理観の獲得意識が乏しい
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	ホームルーム活動、学校行事、学生会活動の結果を総合して行い、「合」、「否」で判定する。						100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

様式 A 特別活動（山中／西川／中村（重）／神谷）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	特別活動 Special Curricular Activity		単位
	一般・専門の別・ 学習の分野			授業形態・学期 通年
	対象学生	2年		必修・履修・履修選 択・選択の別
	担当教員・所属	2 S 学級担任：山中 聡 (先進科学系) 2 M 学級担任：西川 弘太郎 (機械システム系) 2 E 学級担任：中村 重之 (電気電子システム系) 2 C 学級担任：神谷 健 (情報システム系) 2 年学年主任：横谷 正明		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分 野			
	学習教育目標との 関連			
	技術者教育プログ ラムとの関連			
	授業の概要	特別活動は学級・学年によるホームルーム活動や学年行事，学校行事， 学生会活動に分類される。週 1 時間のホームルーム活動においては，1 年 の混合学級から系別のクラス編成となっているので，教科・科目への意識 を高め，進路の選択などについての指導をうけながら，同級生との仲間意 識を育て高専生としてよりモラルや向上心を高める。		
	学習目的	学級や学校生活，日常的学習の基盤形成をめざし，社会性の育成に益す る経験をつみ，主体的に行動する態度を養うことを目的とする。		
到達目標	◎ 1. クラスの中で，生活の充実向上や諸問題の解決ができる。 ◎ 2. モラルや規律に則した学習・生活態度を確立する。 ◎ 3. 個々の役割を考えながら学校行事や学生会活動に積極的に参加でき る。			
履修上の注意	特別活動は，第 1 学年から第 3 学年までの各学年 30 単位時間計 90 単 位時間以上実施する。			
履修のアドバイス	各学年の課程修了を認定するに当たっては，学業成績のほか特別活動の状 況を併せ評価するので，積極的な活動への参加を要する。			
基礎科目	特別活動（1年）と全ての教科活動			
関連科目	特別活動（3年）と全ての教科活動			

様式B 特別活動（山中／西川／中村（重）／神谷）

授業にかかわる情報		
授業の方法		ホームルーム活動は学級担任の指導・助言のもとに学生の自主性を重んじる。学生の生活・学習状況について個人面接やクラス討議によって相互理解を深め、信頼関係形成をめざす。家庭との連携を図りながら、学生の健全な成長を図る。委員会、学生会活動などに関しては、学生が学年をこえて協力し、自主的な活動をすすめる。活動の内容によっては担任以外の教員からも協力をえる。
授業計画	開講週	内容〔項目〕（指示事項）
	1 週から 1 5 週	<p>（4月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション① ・始業H・R〔ガイダンス、クラス委員選出、日直・掃除当番の職務について、座席の決定など〕① ・資格関連科目を含む選択科目の履修に関する指導 ・個人面談 ・単位認定試験の説明 ・学生生活ハンドブックの説明（単位や進級） <p>（5月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに関する指導と目標記録簿による目標の設定〔技術者教育プログラムの説明を含む〕 ・春季スポーツ大会出場クラス選手の選出など ・個人面談・工場見学ガイダンス ・春季スポーツ大会② ・学生総会① <p>（6月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場見学・校外教育② ・キャリア教育 ・試験の反省 <p>（7月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場見学のまとめ〔報告書の作成〕 ・キャリア教育 ・自由課題での討論 ・前期末試験の取り組み <p>（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの過ごし方
	1 6 週から 3 0 週	<p>（9月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標記録簿による中間達成度評価 ・全校集会① <p>（10月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談調整など、進路について考えよう ・交通安全教育 ・秋季スポーツ大会出場クラス選手の選出 ・秋季スポーツ大会② <p>（11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育 ・後期中間の取り組み <p>（12月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人面接 <p>（1月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育 ・学生会長選挙立会演説会① <p>（2月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標記録簿による達成度評価 ・学年末試験への取り組み ・清掃 ・全校集会① <p>（H・Rの掃除、日直活動などの学級での活動もホームルーム活動に含む。）</p>
教科書、教材等	適宜、資料を配付する。また映像資料なども活用する。	
成績評価方法	「特別活動の結果」が良好であるとの認定は、実施時間数の5分の4以上出席した者について行う。評価は、ホームルーム活動（学年行事を含む）、学校行事、学生会活動の結果を総合しておこない、「合」、「否」で判定する。	
受講上のアドバイス	与えられた情報をうけとり、課題をこなすだけでなく、積極的に参加すること。特に集団として取り組みを重視してほしい。ショートホームルームを10回休むと、特別活動の1単位時間の欠課とする。また遅刻の回数が多い場合は、警告を行った後、欠席扱いとすることもある。	

ルーブリック							
	理想的なレベルの 目安（優）	標準的なレベルの 目安（良）	到達レベルの目安 （可）	未到達レベルの目 安（不可）			
評価項目 1	クラスでの個人の 在り方を主体的に 考え、積極的に行動 することができる	クラスでの個人の 在り方を主体的に 考え、行動すること ができる	クラスでの個人の 在り方を主体的に 考えることができ る	クラスでの個人の 在り方を主体的に 考えることができ ない			
評価項目 2	目標を持ち主体的 に生きる学習・生活 態度を確立してい る	目標を持ち主体的 に生きる学習・生活 態度を確立する意 識があり、努力して いる	目標を持ち主体的 に生きる学習・生活 態度を確立する意 識がある	目標を持ち主体的 に生きる学習・生活 態度を確立する意 識が乏しい			
評価項目 3	学生参加行事に積 極的に参加し、その 際に責任ある行動 がとれる	学生参加行事に参 加し、その際に責任 ある行動がとれる	学生参加行事に参 加している	学生参加行事に参 加しない			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	ホームルーム活動，学校行事，学生会活動の結果を総合して 行い、「合」、「否」で判定する。						100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

様式 A 特別活動 (守友 博紀)

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	特別活動 (Special Curricular Activity)	単位	
	一般・専門の別・ 学習の分野		授業形態・学期	通年
	対象学生	3-S	必修・必履修・ 履修選択・選択の別	
	担当教員・所属系	守友博紀 総合理工学科 先進科学系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野			
	学習教育目標との 関連			
	技術者教育 プログラムとの関連			
	授業の概要	<p>特別活動は学級・学年によるホームルーム活動や学年行事、学校行事、学生会活動に分類される。毎朝のショートホームルームは、規則正しい生活リズムの確立を目指すものであり、学校生活に不可欠な情報の伝達も同時に行う。週1時間のホームルーム活動においては、合宿研修への取り組み、より深い専門教科を学ぶ姿勢、学校での様々な活動におけるリーダーとしての役割について、クラスでの話し合いを深める。進路の選択などについてもより具体的に考えられるよう話し合いと学習を行う。また人権・同和問題を含め、今後3年間過ごす同級生との仲間意識を育て、高専生として、よりモラルや向上心を高める。</p> <p>特に3年では、学級単位の合宿研修や交通安全講習会や成人年齢引き下げに関する講演会などの学年行事に取り組むことで、学校・学級生活だけでなく社会生活における円滑化を図る。</p>		
	学習目的	<p>特別活動を通じて学級や学校生活、日常的学習の基盤形成をめざす。人間性の涵養、自主・自律と社会性の育成に益する経験をつみ、民主的・主体的に行動する態度を養うことを目的とする。</p>		
	到達目標	<p>◎1. グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーション、リーダーシップなどを考えながら行動できる。</p> <p>◎2. 日常生活での自己管理に気を付けることができる。</p> <p>◎3. 法令や人権問題に関して主体的に学習し考えられる。</p> <p>◎4. 自らのキャリアについて具体的に考え行動できる。</p>		
履修上の注意	<p>特別活動は、第1学年から第3学年までの各学年30単位時間計90単位時間以上実施する。</p>			
履修のアドバイス	<p>各学年の課程修了を認定するに当たっては、学業成績のほか特別活動の状況を併せ評価するので、主体的な活動への参加を要する。</p>			
基礎科目	特別活動(1・2年)と「公共」、「歴史」などの全ての教科活動			
関連科目	全ての教科活動			

授業にかかわる情報		
授業の方法		ホームルーム活動においては学生の自主性を重んじ、お互いの人間性を尊重し合い、相互理解を深め、信頼関係形成をめざして豊かな人間関係を育てる。委員会・学生会活動などに関しては、リーダー的な立場が取れるような活動をすすめる。さらに、合宿研修が豊かで実りあるものとなるよう努力する。
授業計画	開講週	内容〔項目〕(指示事項)
	1 週から 1 5 週	<p>(4月 到達目標：1,2,4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション① ・ 始業 HR①〔ガイダンス, クラス委員選出, 日直・掃除当番の職務について, 座席の決定など〕 ・ 選択科目の履修に関する指導 ・ 津山高専情報倫理ガイドラインの説明 ・ 個人面談・単位認定試験の説明, 学生生活ガイドブック説明(単位・進級) <p>(5月 到達目標：1,2,4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスに関する指導と目標記録簿による目標の設定〔技術者教育プログラムの説明を含む〕 ・ 春季スポーツ大会出場クラス選手の選出 ・ 春季スポーツ大会② ・ 個人面談 ・ 合宿研修への取り組み(1) ・ 学生総会① <p>(6月 到達目標：1,2,4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合宿研修への取り組み(2) ・ 前期中間試験への取り組み ・ 試験の反省と苦手教科克服への取り組み <p>(7月 到達目標：1,2,4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合宿研修への取り組み(3) ・ 自由課題での討論 ・ 前期末試験への取り組み <p>(8月 到達目標：1,2,3,4)</p> <p>前期末試験の反省 ・ 夏休みの過ごし方</p>

後期	16週から 30週	<p>(9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会① ・夏休みの報告と反省 <p>(10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標記録簿による中間達成度評価 ・合宿研修への取り組み(4) ・合宿研修④ ・合宿研修のまとめ, 報告書の作成 ・交通安全教育 ・秋季スポーツ大会出場クラス選手の選出 ・秋季スポーツ大会② <p>(11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育(1), (2) ・進路ガイダンス, 進路の決まった先輩の報告を聞く ・後期中間試験への取り組み <p>(12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期中間試験の反省 <p>(1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育 ・キャリア教育(3) ・学生会長選挙立会演説会① <p>(2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標記録簿による達成度評価 ・後期末試験への取り組み ・清掃 ・全校集会① <p>(HRの掃除, 日直活動などの学級での活動もホームルーム活動に含む)</p>
教科書, 教材等	適宜, 資料を配付する。また映像資料などもできるだけ活用する。	
成績評価方法	「特別活動の結果」が良好であるとの認定は, 実施時間数の5分の4以上出席した者について行う。ショートホームルームを10回休むと1時間の欠課となるので注意すること。評価は, ホームルーム活動, 学校行事, 学生会活動の結果を総合しておこない, 「合」, 「否」で判定する。	
受講上のアドバイス	あたえられた情報をうけとり, 課題をこなすだけではなく, 積極的に参加すること。特に集団として取り組みを重視してほしい。授業計画は項目の前後, 内容の変更がありうる。遅刻とみなす時間は原則として授業時間の1/2までとし, 以降は欠課とみなす。	

ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目 1	学生参加行事に積極的に参加し、その際に責任ある行動が十分に取れる。		学生参加行事に積極的に参加し、その際に責任ある行動が取れる。		学生参加行事に参加している。		学生参加行事に参加していない。
評価項目 2	グループでの共同作業において、リーダーとなって全体に目を配り、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案が十分にできる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案が十分にできる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案ができる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案ができない。
評価項目 3	日常生活において、自らの行動を律するだけでなく、法令や人権に配慮し周囲への働きかけも十分にできる。		日常生活において、自らの行動を律するだけでなく、法令や人権に配慮し周囲への働きかけもできる。		日常生活において、自己管理ができるとともに、法令や人権に配慮した行動をとることができる。		日常生活において、自己管理ができるとともに、法令や人権に配慮した行動をとることができない。
評価項目 4	自らのキャリアに対して明確な目標を持ち、それに向かって行動を積極的に起こすことができる。		自らのキャリアに対して目標を持ち、それに向かって行動を起こすことができる。		自らのキャリアについて具体的に考え行動できる。		自らのキャリアについて具体的に考え行動できない。
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	ホームルーム活動、学校行事、学生会活動の結果を総合して行い、「合」、「否」で判定する。						100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

様式 A 特別活動 (山田 貴史)

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	特別活動 (Special Curricular Activity)		単位
	一般・専門の別・ 学習の分野			授業形態・学期 通年
	対象学生	3-M		必修・必履修・ 履修選択・選択の別
	担当教員・所属系	山田 貴史・総合理工学科 機械システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野			
	学習教育目標との 関連			
	技術者教育 プログラムとの関連			
	授業の概要	<p>特別活動は学級・学年によるホームルーム活動や学年行事、学校行事、学生会活動に分類される。毎朝のショートホームルームは、規則正しい生活リズムの確立を目指すものであり、学校生活に不可欠な情報の伝達も同時に行う。週1時間のホームルーム活動においては、合宿研修への取り組み、より深い専門教科を学ぶ姿勢、学校での様々な活動におけるリーダーとしての役割について、クラスでの話し合いを深める。進路の選択などについてもより具体的に考えられるよう話し合いと学習を行う。また人権・同和問題を含め、今後3年間過ごす同級生との仲間意識を育て、高専生として、よりモラルや向上心を高める。</p> <p>特に3年では、学級単位の合宿研修や交通安全講習会や成人年齢引き下げに関する講演会などの学年行事に取り組むことで、学校・学級生活だけでなく社会生活における円滑化を図る。</p>		
	学習目的	<p>特別活動を通じて学級や学校生活、日常的学習の基盤形成をめざす。人間性の涵養、自主・自律と社会性の育成に益する経験をつみ、民主的・主体的に行動する態度を養うことを目的とする。</p>		
	到達目標	<p>◎1. グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーション、リーダーシップなどを考えながら行動できる。</p> <p>◎2. 日常生活での自己管理に気を付けることができる。</p> <p>◎3. 法令や人権問題に関して主体的に学習し考えられる。</p> <p>◎4. 自らのキャリアについて具体的に考え行動できる。</p>		
	履修上の注意	<p>特別活動は、第1学年から第3学年までの各学年30単位時間計90単位時間以上実施する。</p>		
履修のアドバイス	<p>各学年の課程修了を認定するに当たっては、学業成績のほか特別活動の状況を併せ評価するので、主体的な活動への参加を要する。</p>			
基礎科目	特別活動(1・2年)と「公共」、「歴史」などの全ての教科活動			
関連科目	全ての教科活動			

授業にかかわる情報		
授業の方法		ホームルーム活動においては学生の自主性を重んじ、お互いの人間性を尊重し合い、相互理解を深め、信頼関係形成をめざして豊かな人間関係を育てる。委員会・学生会活動などに関しては、リーダー的な立場が取れるような活動をすすめる。さらに、合宿研修が豊かで実りあるものとなるよう努力する。また、毎朝ショートホームルームを実施し、連絡事項を確認する。
授業計画	開講週	内容〔項目〕(指示事項)
	前期 1 週から 1 5 週	(4月 到達目標：1, 2, 4) ・ オリエンテーション① ・ 始業H・R①〔ガイダンス, クラス委員選出, 日直・掃除当番の職務について, 座席の決定など〕 ・ 選択科目の履修に関する指導 ・ 津山高専情報倫理ガイドラインの説明 ・ 個人面談・単位認定試験の説明, 学生生活ガイドブック説明(単位・進級) (5月 到達目標：1, 2, 4) ・ シラバスに関する指導と目標記録簿による目標の設定〔技術者教育プログラムの説明を含む〕 ・ 春季スポーツ大会出場クラス選手の選出 ・ 春季スポーツ大会② ・ 個人面談 ・ 合宿研修への取り組み(1) ・ 学生総会① (6月 到達目標：1, 2, 4) ・ 合宿研修への取り組み(2) ・ 前期中間試験への取り組み ・ 試験の反省と苦手教科克服への取り組み (7月 到達目標：1, 2, 4) ・ 合宿研修への取り組み(3) ・ 自由課題での討論 ・ 前期末試験への取り組み (8月 到達目標：1, 2, 3, 4) 前期末試験の反省 ・ 夏休みの過ごし方
	後期 1 6 週から 3 0 週	(9月) ・ 全校集会① ・ 夏休みの報告と反省 (10月) ・ 目標記録簿による中間達成度評価 ・ 合宿研修への取り組み(4) ・ 合宿研修④ ・ 合宿研修のまとめ, 報告書の作成 ・ 交通安全教育 ・ 秋季スポーツ大会出場クラス選手の選出 ・ 秋季スポーツ大会② (11月) ・ キャリア教育(1), (2) ・ 進路ガイダンス, 進路の決まった先輩の報告を聞く ・ 後期中間試験への取り組み (12月) ・ 後期中間試験の反省 (1月) ・ 人権教育 ・ キャリア教育(3) ・ 学生会長選挙立会演説会① (2月) ・ 目標記録簿による達成度評価 ・ 後期末試験への取り組み ・ 清掃 ・ 全校集会① (H・Rの掃除, 日直活動などの学級での活動もホームルーム活動に含む)
教科書, 教材等		適宜, 資料を配付する。また映像資料などもできるだけ活用する。

<p>成績評価方法</p>	<p>「特別活動の結果」が良好であるとの認定は、実施時間数の5分の4以上出席した者について行う。ショートホームルームを10回休むと1時間の欠課となるので注意すること。評価は、ホームルーム活動、学校行事、学生会活動の結果を総合しておこない、「合」、「否」で判定する。</p>
<p>受講上のアドバイス</p>	<p>あたえられた情報をうけとり、課題をこなすだけでなく、積極的に参加すること。特に集団として取り組みを重視してほしい。授業計画は項目の前後、内容の変更がありうる。遅刻とみなす時間は原則として授業時間の1/2までとし、以降は欠課とみなす。</p>

ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目 1	学生参加行事に積極的に参加し、その際に責任ある行動が十分に取れる。		学生参加行事に積極的に参加し、その際に責任ある行動が取れる。		学生参加行事に参加している。		学生参加行事に参加していない。
評価項目 2	グループでの共同作業において、リーダーとなって全体に目を配り、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案が十分にできる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案が十分にできる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案ができる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案ができない。
評価項目 3	日常生活において、自らの行動を律するだけでなく、法令や人権に配慮し周囲への働きかけも十分にできる。		日常生活において、自らの行動を律するだけでなく、法令や人権に配慮し周囲への働きかけもできる。		日常生活において、自己管理ができるとともに、法令や人権に配慮した行動をとることができる。		日常生活において、自己管理ができるとともに、法令や人権に配慮した行動をとることができない。
評価項目 4	自らのキャリアに対して明確な目標を持ち、それに向かって行動を積極的に起こすことができる。		自らのキャリアに対して目標を持ち、それに向かって行動を起こすことができる。		自らのキャリアについて具体的に考え行動できる。		自らのキャリアについて具体的に考え行動できない。
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	ホームルーム活動、学校行事、学生会活動の結果を総合して行い、「合」、「否」で判定する。						100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

様式 A 特別活動（桶 真一郎）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	特別活動 (Special Curricular Activity)		単位
	一般・専門の別・ 学習の分野			授業形態・学期 通年
	対象学生	3-E		必修・必履修・ 履修選択・選択の別
	担当教員・所属系	桶真一郎・総合理工学科 電気電子システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野			
	学習教育目標との 関連			
	技術者教育 プログラムとの関連			
	授業の概要	<p>特別活動は学級・学年によるホームルーム活動や学年行事、学校行事、学生会活動に分類される。毎朝のショートホームルームは、勉学のペース作りと諸伝達を行う。週 1 時間のホームルーム活動は、合宿研修の取り組み、専門教科をより深く学ぶための姿勢の習得、学校での様々な活動に対してリーダーとして役割が果たせるための取り組み、クラスでの話し合い等を実施する。また人権問題を含め、今後 3 年間過ごす同級生との仲間意識を育て、高専生として、よりモラルや向上心を高める。</p> <p>特に 3 年時には、学級単位の合宿研修や交通安全講習会等の学年行事に取り組むことで、学校・学級生活の円滑化を図る。</p>		
	学習目的	<p>特別活動を通じて学級や学校生活、日常的学習の基盤形成を目指す。人間性の涵養、自主・自律と社会性の育成に益する経験を積み、民主的・主体的に行動する態度を養うことを目的とする。</p>		
	到達目標	<p>◎1. グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーション、リーダーシップ、責任感などを考えながら行動できる。</p> <p>◎2. 日常生活での自己管理に気を付けることができる。</p> <p>◎3. 法令や人権問題に関して主体的に学習し考えられる。</p> <p>◎4. 自らのキャリアについて具体的に考え行動できる。</p>		
履修上の注意	特別活動は、第 1 学年から第 3 学年までの各学年 30 単位時間計 90 単位時間以上実施する。			
履修のアドバイス	各学年の課程修了を認定するに当たっては、学業成績のほか特別活動の状況を併せ評価するので、主体的な活動への参加を要する。			
基礎科目	特別活動（1・2 年）と全ての教科活動			
関連科目	全ての教科活動			

授業にかかわる情報		
授業の方法		ホームルーム活動は学生の自主性を重んじ、お互いの人間性を尊重し合い、相互理解を深め、信頼関係の形成を目指し、豊かな人間関係を育てる。委員会・学生会活動などに関しては、リーダー的な立場が取れるような活動を勧める。宿泊研修が豊かで実りあるものとなるよう努力する。
授業計画	開講週	内容〔項目〕(指示事項)
	1週 から 15週	<p>(4月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ① ・ 始業H・R ①〔ガイダンス, クラス委員選出, 日直・掃除当番の職務について, 座席の決定等〕 ・ 資格関連科目を含む選択科目の履修に関する指導 ・ 津山高専情報倫理ガイドラインの説明, 個人面談 ・ 単位認定試験の説明, 学生生活ガイドブック説明(単位・進級) <p>(5月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスに関する指導と目標記録簿による目標の設定〔技術者教育プログラムの説明を含む〕 ・ 春季スポーツ大会出場クラス選手の選出等 ・ 春季スポーツ大会 ② ・ 個人面談 ・ 合宿研修への取り組み(1) ・ 学生総会 ① <p>(6月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合宿研修への取り組み(2) ・ 前期中間試験への取り組み ・ 試験の反省と苦手教科克服の取り組み <p>(7月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合宿研修への取り組み(3) ・ 自由課題での討論 ・ 前期末試験の取り組み <p>(8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期末試験の反省 ・ 夏休みの過ごし方

後期	16週 から 30週	<p>(9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全校集会 ① ・ 夏休みの報告と反省 <p>(10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標記録簿による中間達成度評価 ・ 合宿研修への取り組み (4) ・ 合宿研修 ④ ・ 合宿研修のまとめ, 報告書の作成 ・ 交通安全教育 ・ 秋季スポーツ大会出場クラス選手の選出 ・ 秋季スポーツ大会 ② <p>(11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育 (1), (2) ・ 進路ガイダンス, 進路の決まった先輩の報告を聞く ・ 後期中間試験への取り組み <p>(12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後期中間試験の反省 <p>(1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育 ・ キャリア教育 (3) ・ 学生会長選挙立会演説会 ① <p>(2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標記録簿による達成度評価 ・ 後期末試験への取り組み ・ 清掃 ・ 全校集会 ① <p>(H・R の掃除, 日直活動等の学級での活動もホームルーム活動に含む)</p>
教科書, 教材等	適宜, 資料を配布する. また, 映像資料等も活用する.	
成績評価方法	「特別活動の結果」が良好であるとの認定は, 実施時間数の5分の4以上出席した者について行う。ショートホームルームを10回休むと1時間の欠課となるので注意すること。評価は, ホームルーム活動, 学校行事, 学生会活動の結果を総合して行い, 「合」, 「否」で判定する。	
受講上のアドバイス	与えられた情報を受け取り, 課題をこなすだけでなく, 積極的に参加すること。特に集団としての取り組みを重視して欲しい。授業計画は項目の前後, 内容の変更があり得る。遅刻については, 実施時間 (SHR は5分, LHR は50分等) の1/2以内の入室を遅刻, それ以降を欠課として扱う。	

ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目 1	学生参加行事に積極的に参加し、その際に責任ある行動が十分に取れる。		学生参加行事に積極的に参加し、その際に責任ある行動が取れる。		学生参加行事に参加している。		学生参加行事に参加していない。
評価項目 2	グループでの共同作業において、リーダーとなって全体に目を配り、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案が十分にできる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案が十分にできる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動提案ができる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案ができない。
評価項目 3	日常生活において、自らの行動を律するだけでなく、法令や人権に配慮し周囲への働きかけも十分にできる。		日常生活において、自らの行動を律するだけでなく、法令や人権に配慮し周囲への働きかけもできる。		日常生活において、自己管理ができると共に、法令や人権に配慮した行動を取ることができる。		日常生活において、自己管理ができると共に、法令や人権に配慮した行動を取ることができない。
評価項目 4	自らのキャリアに対して明確な目標を持ち、それに向かって行動を積極的に起こすことができる。		自らのキャリアに対して目標を持ち、それに向かって行動を起こすことができる。		自らのキャリアについて具体的に考え行動できる。		自らのキャリアについて具体的に考え行動することができない。
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	ホームルーム活動，学校行事，学生会活動の結果を総合して行い、「合」，「否」で判定する。						100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

様式 A 特別活動（大西 淳）

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	特別活動 (Special Curricular Activity)	単位	
	一般・専門の別・ 学習の分野		授業形態・学期	通年
	対象学生	3-C	必修・必履修・ 履修選択・選択の別	
	担当教員・所属系	大西淳・総合理工学科 情報システム系		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野			
	学習教育目標との 関連			
	技術者教育 プログラムとの関連			
	授業の概要	<p>特別活動は学級・学年によるホームルーム活動や学年行事、学校行事、学生会活動に分類される。毎朝のショートホームルームは勉学のペース作りと諸伝達を行う。前期では、週1時間のホームルーム活動において、合宿研修の取り組み、学校での様々な活動にリーダーとして役割が果たせるクラスでの話し合いを深める。後期では、より深い専門教科を学ぶ姿勢と、進路の選択などについて具体的に考えられるよう話し合いと学習を行う。また人権問題を含め、今後3年間過ごす同級生との仲間意識を育て高専生としてよりモラルや向上心を高める。</p> <p>特に3年では、学級単位の合宿研修や交通安全講習会などの学年行事に取り組むことで、学校・学級生活の円滑化を図る。</p>		
	学習目的	<p>特別活動を通じて学級や学校生活、日常的学習の基盤形成をめざす。人間性の涵養、自主・自律と社会性の育成に益する経験をつみ、民主的・主体的に行動する態度を養うことを目的とする。</p>		
	到達目標	<p>◎1. グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーション、リーダーシップ、責任感などを考えながら行動できる。</p> <p>◎2. 日常生活での自己管理に気を付けることができる。</p> <p>◎3. 法令や人権問題に関して主体的に学習し考えられる。</p> <p>◎4. 自らのキャリアについて具体的に考え行動できる。</p>		
	履修上の注意	<p>特別活動は、第1学年から第3学年までの各学年30単位時間計90単位時間以上実施する。</p>		
履修のアドバイス	<p>各学年の課程修了を認定するに当たっては、学業成績のほか特別活動の状況を併せ評価するので、主体的な活動への参加を要する。</p>			
基礎科目	特別活動（1・2年）と「倫理」、「世界史」（1）などの全ての教科活動			
関連科目	全ての教科活動			

授業にかかわる情報		
授業の方法		ホームルーム活動は学生の自主性を重んじ、お互いの人間性を尊重し合い、相互理解を深め、信頼関係形成をめざし豊かな人間関係を育てる。委員会・学生会活動などに関しては、リーダー的な立場が取れるような活動をすすめる。宿泊研修が豊かで実りあるものとなるよう努力する。
授業計画	開講週	内容〔項目〕（指示事項）
	1 週から 1 5 週	<p>（4月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション① ・始業H・R①〔ガイダンス、クラス委員選出、日直・掃除当番の職務について、座席の決定など〕 ・資格関連科目を含む選択科目の履修に関する指導 ・津山高専情報倫理ガイドラインの説明、個人面談 ・単位認定試験の説明、学生生活ガイドブック説明（単位・進級） <p>（5月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに関する指導と目標記録簿による目標の設定〔技術者教育プログラムの説明を含む〕 ・春季スポーツ大会出場クラス選手の選出など ・春季スポーツ大会② ・個人面談 ・合宿研修への取り組み（1） ・学生総会① <p>（6月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合宿研修への取り組み（2） ・前期中間試験への取り組み ・試験の反省と苦手教科克服の取り組み <p>（7月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合宿研修への取り組み（3） ・自由課題での討論 ・前期末試験の取り組み <p>（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期末試験の反省 ・夏休みの過ごし方

後 期	16週から 30週	<p>(9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会① ・夏休みの報告と反省 <p>(10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標記録簿による中間達成度評価 ・合宿研修への取り組み(4) ・合宿研修④ ・合宿研修のまとめ, 報告書の作成 ・交通安全教育 ・秋季スポーツ大会出場クラス選手の選出 ・秋季スポーツ大会② <p>(11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育(1), (2) ・進路ガイダンス, 進路の決まった先輩の報告を聞く ・後期中間試験への取り組み <p>(12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期中間試験の反省 <p>(1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育 ・キャリア教育(3) ・学生会長選挙立会演説会① <p>(2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標記録簿による達成度評価 ・後期末試験への取り組み ・清掃 ・全校集会① <p>(H・Rの掃除, 日直活動などの学級での活動もホームルーム活動に含む)</p>
教科書, 教材等	適宜, 資料を配付する。また映像資料などもできるだけ活用する。	
成績評価方法	「特別活動の結果」が良好であるとの認定は, 実施時間数の5分の4以上出席した者について行う。ショートホームルームを10回休むと1時間の欠課となるので注意すること。評価は, ホームルーム活動, 学校行事, 学生会活動の結果を総合しておこない, 「合」, 「否」で判定する。	
受講上のアドバイス	あたえられた情報をうけとり, 課題をこなすだけでなく, 積極的に参加すること。特に集団として取り組みを重視してほしい。授業計画は項目の前後, 内容の変更がありうる。	

ルーブリック							
	優		良		可		不可
評価項目 1	学生参加行事に積極的に参加し、その際に責任ある行動が十分に取れる。		学生参加行事に積極的に参加し、その際に責任ある行動が取れる。		学生参加行事に参加している。		学生参加行事に参加していない。
評価項目 2	グループでの共同作業において、リーダーとなって全体に目を配り、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案が十分にできる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案が十分にできる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案ができる。		グループでの共同作業において、主体性やチームワーク、コミュニケーションを図るための行動・提案ができない。
評価項目 3	日常生活において、自らの行動を律するだけでなく、法令や人権に配慮し周囲への働きかけも十分にできる。		日常生活において、自らの行動を律するだけでなく、法令や人権に配慮し周囲への働きかけもできる。		日常生活において、自己管理ができるとともに、法令や人権に配慮した行動をとることができる。		日常生活において、自己管理ができるとともに、法令や人権に配慮した行動をとることができない。
評価項目 4	自らのキャリアに対して明確な目標を持ち、それに向かって行動を積極的に起こすことができる。		自らのキャリアに対して目標を持ち、それに向かって行動を起こすことができる。		自らのキャリアについて具体的に考え行動できる。		自らのキャリアについて具体的に考え行動できない。
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	小テスト	合計
総合評価割合	ホームルーム活動、学校行事、学生会活動の結果を総合して行い、「合」、「否」で判定する。						100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0